

重井小中学校の学校再編に係る重井中学校区地域説明会（第1回）議事録

- 1 日 時 令和6年9月18日（水） 19:00～21:20
 2 場 所 重井公民館
 3 参集者 地域住民 88人
 4 説明者 宮本教育長、中濱教育総務部長、小柳学校教育部長
 榎原因島瀬戸田地域教育課長、安保学校経営企画課長、金子教育指導課長
 小田因島瀬戸田地域教育課地域教育係長、宮崎学校経営企画課企画振興係長（司会）

5 進 行

担 当	内 容
司会者	<p>（19:00 開会）</p> <p>本日はお集まりいただきましてありがとうございます。これから重井小中学校の学校再編について、2中学校区の学校再編案を説明いたします。挨拶・説明に約45分、質疑に約1時間15分いただき、概ね2時間で終了時刻は21時を考えております。よろしく願いいたします。はじめに、教育長よりご挨拶申し上げます。</p>
宮本教育長	<p>（教育長挨拶）</p> <p>皆様、こんばんは。教育長の宮本と申します。ほとんどの方が初めてお目にかかる方じゃないかと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は、大変暑い中、また昼間のお仕事等で大変お疲れのところ、第1回重井中学校区地域説明会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>重井小中学校の学校再編につきましては、これまで保護者の皆様や地域の皆様で議論がなされ、また、市議会におきましても、本会議や委員会で議論されてきたところでございます。これらの議論を通しまして、「重井小中学校の学校再編の方向性につきましては、教育委員会が責任を持ってご提案する。」ということで皆様にご理解をいただいているものと認識をいたしております。</p> <p>そうした中、昨年令和5年12月以降、重井小中学校の保護者の皆様、重井地域の皆様と教育委員会で意見交換会を開きまして、様々なご意見をいただきました。皆様からいただきましたご意見を踏まえまして、教育委員会として、学校再編の方向性等を慎重に検討をいたしました。</p> <p>重井小学校も重井中学校も大変長い歴史と伝統がございまして、地域の宝である様々な教育資源を生かした学習が充実しております。両校共に素晴らしい学校でございます。私は、重井小学校、重井中学校の歴代の校長先生方をはじめとする教職員の皆様と子どもたち、そして、学校</p>

<p>司会者</p>	<p>を支えてくださっている保護者・地域の皆様、こうした方々が大切に築いてこられた学校文化や伝統を大切にして、学校再編の方向性や教育の中身を考えていく必要があると強く思っているところでございます。そして、これからの変化の激しい時代を生きていく子どもたちの未来のために、保護者の皆様、地域の皆様、そして学校の先生方、そして、私たち教育委員会と力を合わせて子どもたちや保護者の皆様、地域の皆様が誇りに思える因島らしさを取り入れた、新たな学びを是非創造したいと、そのように考えております。</p> <p>本日は、これまでの意見交換会を経まして、教育委員会として検討してまいりました、学校再編の方向性や教育の中身、また、通学対策等につきましても説明申し上げたいと思います。その後、皆様からご意見やご質問を頂戴して、それにお答えしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに資料の確認をさせていただきます。1点目は、本日のレジメになります。2点目はスライドを印刷した冊子になります。</p> <p>日付の方は本来予定しておりました説明会の令和6年8月30日になっております。ご了承ください。3点目は、資料1～資料5を合わせたものをセットさせていただいております。それでは、説明をさせていただきます。</p>
<p>安井 学校経営 企画課長</p>	<p>(事務局からの説明)</p> <p>1 重井小中学校の学校再編について</p> <p>本日は地域説明会にお越しいただきありがとうございます。これから子どもたちの未来を拓く小中一貫教育校による新たな学びの創造と題して、重井小中学校の学校再編について説明をさせていただきます。</p> <p>本日提案します再編後の学校は、「子どもたちが元気に明るく学校に通い、切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「保護者・地域から愛され、誇りに思える学校」を目指し、重井小中学校と因北小中学校の教育資源を最大限生かした、新たな学びを創造していきたいと考えています。</p> <p>本日の説明はスライドにありますように、大きく3点。1点目は重井小中学校の学校再編について、2点目は小中一貫教育校について、教育内容、小中一貫教育校の施設、通学路の安全対策と通学対策について、3点目は今後のスケジュール（案）について、の順で説明いたします。</p> <p>まず、尾道市教育委員会の学校再編の考え方について、説明させていただきます。尾道市立小・中学校再編計画を平成23年12月に策定し、</p>

子どもたちの安全安心の確保はもとより、教育環境の充実を目指し、適正な学校規模の確保を基本として、小中学校の学校再編を進めてまいりました。

適正な学校規模の確保として、複式学級の早期解消、1学年複数学級化の推進、学校施設の耐震化の推進として、耐震化工事対象校の精査、耐震化率100%の早期実現、尾道15年教育の推進として、1中学校校区における1小学校及び認定こども園の配置を推進です。

この再編計画のもと、平成23年度以降の再編では、平成25年4月、南小学校、東生口小学校、瀬戸田小学校を再編し瀬戸田小学校に、平成25年4月、生口中学校、瀬戸田中学校を再編し瀬戸田中学校に、平成27年4月、土生小学校、田熊小学校、三庄小学校を再編し因島南小学校に、平成29年4月、木頃小学校、木ノ庄西小学校、木ノ庄東小学校、原田小学校を再編し、美木原小学校になっております。

資料1、資料2をご覧ください。

資料1は①重井小学校、②因北小学校、③2小学校を合わせた場合の児童数の推移、資料2は①重井中学校、②因北小学校、③2中学校を合わせた場合の生徒数の推移です。

重井小中学校の状況を見ますと、今後、重井小学校は毎年複式学級が生じ、重井中学校は全校生徒数の減少による小規模化になると見込まれます。教育委員会では、児童生徒が切磋琢磨できる適正規模の教育環境を充実するという観点から、学校再編を進める必要があると考え、令和5年12月から保護者・地域の方との意見交換会を実施してまいりました。

意見交換会で出された意見は後ほど紹介しますが、教育委員会として今後の重井小中学校の在り方について、検討を重ねた結果は次のとおりです。

令和9年度、重井小学校と因北小学校は因北小学校に、同じく令和9年度、重井中学校と因北中学校は因北中学校に、学校再編します。そして令和9年度の学校再編と同時に、小中一貫教育校へ移行することを目指します。

現在の重井小学校4年生は重井小学校卒業後、因北中学校へ進学することとなります。また、重井小学校1年生から3年生は再編後の因北小学校の4年生から6年生となります。

それでは、今回の方向性に至ったこれまでの取組を振り返ります。

令和5年度から令和6年度初めにかけて、スライドのような日程で意見交換会を行いました。この時点では、市教委の方からは、中学校は令和8年4月因北中学校へ学校再編。小学校は、まずは中学校を優先し、

小学校の児童推移や地域の声を聞きながら時期を示すという考えで、学校再編の時期は示さず、意見交換会を行いました。

意見交換会では多くの意見をいただきましたが、主な意見として、「小中学校ともに早く統合して欲しい。」「学校選択制度があるため、小中学校入学時に因北小中学校へ入学する。結果、重井小中学校の児童生徒数が減少している。」「中学校の統合は待ったなしだが、小学校は地域の拠点のため、当面存続して欲しい。」「重井中学校の少人数だからできる教育を受けさせたい。重井中学校で卒業させたい強い思いがある。下級生が入学しなかったとしても思いは変わらない。」というような意見をいただきました。4月20日からは、今後の方向性（案）を配布資料として提示し、意見交換会を行いました。

案として、小学校、中学校ともに令和9年4月の因北小中学校へ学校再編する案を提示させていただきました。今後の方向性（案）の理由として、中学校の学校再編は生徒の教育環境を充実させるためにも、早期に再編することが望ましいと考えられるが、中学校1年生の保護者の思いを大切にしたい再編年度を考える必要があるのではないかと考えました。

意見交換会では多くの意見をいただきましたが、主な意見として、「学校統合は教育委員会で決めていただきたい。決めるのは、保護者や地域ではない。私たちではないことを確認したい。」「小学校3年生以下が因北小学校へ統合となる。当事者となる保護者や児童を重視して説明をして欲しい。」「重井小中学校と因北小中学校が統合する場合には、新設校にして欲しい。新しい校歌・校章を作ることが、町民の願いである。統合か新設かの説明次第でかなり印象が変わってくる。」「どんな学校を創るかということをしかりと示して欲しい。尾道みなと小中学校と同じ熱量を出して新しい学校を創って欲しい。」というようなご意見をいただきました。以上のような意見交換会を経て、教育委員会として検討した結果を改めてご説明いたします。

重井小中学校ともに、再編年度は、令和9年度、令和9年4月とします。学校施設は因北小学校、因北中学校とします。学校再編時にあわせて、令和9年度から因北小学校と因北中学校を小中一貫教育校とします。

2 小中一貫教育校について

続いて、小中一貫教育校についてご説明いたします。資料3をご覧ください

ださい。小中一貫教育校は、市内小中学校の教育環境や教育内容の充実を図っていく上でのモデルとなり、他の中学校区と切磋琢磨しながら、尾道全体の教育の質の向上を目指す学校です。尾道市内2番目となる小中一貫教育校で新たな学びを創造し、尾道スタンダードとして市内へ発信していきます。

これまで、尾道市立学校では、中学校区共通の目指す子ども像や育てたい資質・能力を設定し、教職員による連携や研修を通して、9年間を一体的に捉えた教育活動の展開を図ってきております。令和7年4月に開校する尾道みなと中学校区、尾道みなと中学校、尾道みなと小学校、山波小学校は、これまで取り組んできた小中連携教育を発展させ、9年間の連続したカリキュラムで、教育内容の充実を図り、中学校の卒業時を見据えて、子どもたちの資質能力を育成していく小中一貫教育校となります。この重井中学校区の学校再編においても、新たな中学校区を小中一貫教育校として、子どもたちへの教育の充実を目指し、その取組を市内に発信・普及していきたいと考えております。

小中一貫教育校についてももう少し具体的に説明いたします。

小中一貫教育校は因北小学校、因北中学校の2つの学校からなり、それぞれの学校に校長が配置され、教員組織があります。現在、小学校と中学校は、それぞれが学校教育目標や目指す子ども像を設定し、6年間または3年間の教育課程、カリキュラムを編成して、教育活動を行っておりますが、小中一貫教育校では、小学校と中学校が共通の学校教育目標や目指す子ども像のもと、義務教育9年間を通した系統的な教育課程を編成します。このことにより、これまで以上に魅力的で子どもたちに力を付けることのできる教育が可能になると考えています。

また、教育研究の研究主題や生徒指導規程等、学校運営上必要な事項の多くが小学校と中学校で共通となるため、授業や生徒指導において、教職員が共通の指導方法で9年間、児童生徒に対応することが可能となり、子どもたちにとっても、小学校から中学校へスムーズに接続することができると考えています。

2-1 教育内容について

金子教育指導
課長

次に、2-1 教育内容について説明いたします。もう一度資料3をご覧ください。

小中一貫教育校は他の中学校区と切磋琢磨しながら、尾道市全体の教育の質の向上を目指す学校です。目指す子ども像は、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども」と考えています。ここには「子どもたちが尾道、因島で育ち学んでよかったと誇りに思い、自分の可能性に挑

戦し、豊かな人生を切り拓いて欲しい」という願いを込めています。

15歳の生徒に身に付けさせたい力は、広島県教育委員会が、自己実現を図っていくための基盤を、義務教育段階で培っていくために設定している力と同様に、「自己を認識し、人生を選択し、表現できる力」を育みたいと考えています。

育てたい資質・能力は学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」等、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等と考えています。これは学習指導要領上示されている資質・能力であり、尾道教育総合推進計画の中でも、尾道の子どもたちに育成すべき資質・能力として掲げているものです。小中一貫教育においても、これらの3つの力をバランスよく育てていくことが大切だと考えています。

このような子どもたちを9年間を通して育成するために、コミュニティ・スクール化、小学校に専科教員の配置、中学校に不登校支援のためのSSRというスペシャルサポートルームの設置、小学校に通級指導教室という、通常学級に在籍する学習障害や注意欠陥多動性障害等の児童に対して、児童一人一人の障害の特性に応じた特別の指導を、週に2時間程度行う通級指導教室の設置、ALTの常駐化、学校司書の配置、スクールソーシャルワーカーの常駐化等を行い、教育環境の充実に力を注いでいきます。

具体的な教育内容について、もう少し詳しくご説明いたします。先程お伝えした、目指す子ども像や育てたい資質・能力を、小中9年間の一体的な学びで実現させていくためには、これまで各学校が培ってきた学びを大切にしながら、新しい学校の特色を出していくことのできる教育内容を創っていくことが大切であると考えています。

尾道市では、今年度から、「グローバル」「ローカル」「尾道らしさ」を推進する事業を進めています。小中一貫教育校では、尾道、因島らしさを土台として、「グローバルな学び、世界を意識した学び」と、「ローカルな学び、尾道、因島という地域を活かした学び」、これを組み合わせる尾道、因島らしさのある9年間の教育内容を創造し、子どもたちに「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」の育成を図っていきます。

まず、「知」確かな学力では、英語教育を充実させ、コミュニケーション能力や言語能力をしっかりと育成します。そのために、中学校へALTを常駐させ、中学校での英語教育の充実を図るとともに、小学校へも定期的に派遣できる環境づくりを行いたいと考えています。

また、高学年、一部中学年への教科担任制の導入による、小学校の学級担任制から中学校の教科担任制へスムーズな移行を行い、いわゆる「中1ギャップ」の緩和や教員の専門性を活かした質の高い授業により、学力の向上を目指したいと考えています。

今年度、教科担任制の状況は、重井小学校では、理科5年生・6年生、図画工作1年生から6年生、家庭科5年生・6年生。因北小学校では、算数5年生・6年生、理科3年生から6年生となっています。

再編後の小学校では、因北小学校で行われている教科担任制加配教員による授業や、先進的に取り組んでいる学校の担任同士の交換授業を取り入れる等工夫をすることで、できるだけ多くの教科を教科担任制にしたいと考えています。

さらに、ICT機器を積極的に活用した授業や家庭学習を行い、情報活用能力を育成します。以上のような取組を小中一体となって9年間の学びの連続性を意識して取り組むことで、子どもたちの確かな学力の育成を目指します。

「徳」豊かな心では、ふるさと学習の学びを通して、郷土を愛する心を育てます。道徳教育や特別活動を充実させ、体験や経験を通して、人を思いやる心を育てます。児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、カウンセリング体制を充実します。

重井小学校は創立149年、因北小学校は創立57年、重井中学校・因北中学校は創立77年の歴史があります。これまで培ってきた学校文化や伝統を、ふるさと学習や道徳教育を中心として、学校教育全体で受け継ぎ、スクールプライド、学校への愛着や誇りを醸成していきたいと考えています。

ふるさと学習は、総合的な学習の時間を中心に行うこととなります。中学校区で目指す資質・能力を育むために、2中学校区の因島の文化や先人から学ぶ教育内容が、現在の中学校区を越えて展開できます。また、現在、各小学校で行われている「ふるさと因島」の人、伝統、環境、産業、歴史等を扱った、例えば、村上勘兵衛、本因坊秀策、久保田権四郎、スイカや除虫菊、五百羅漢等の地域の学習材を扱った教育活動を取り入れ、中学校での職場体験学習や進路学習につなげ、一人一人の進路実現や持続可能な社会の実現に向けて、「因島からの提言」をするといった社会へ参画する態度の育成を図ります。

現在、各小中学校で実施されている総合的な学習の時間の教育内容を、さらに広がりをもった教育内容になるよう、9年間を通して、系統的に地域の学習材を再構成し、取り組んでいきたいと考えております。

また、カウンセリング体制についてですが、今年度、重井中学校区・因北中学校区ともに、スクールカウンセラーを中学校に配置し、中学校区の小学校へも月1回派遣しています。また、因北中学校には不登校生徒等への支援を目的としたスペシャルサポートルームを設置し、担当教員を1名配置しています。

再編後は、現在の児童生徒支援体制を継続し、中学校を基本として、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置します。また、学校統合加配という、児童生徒が統合後の学習環境に早く慣れるように、授業の中で支援するための教員を配置するとともに、スペシャルサポートルームを引き続き設置し、不登校児童生徒を支援するための環境も含め、児童生徒一人一人の健やかな成長を育むための支援体制の充実を図っていきたいと考えています。

「体」健やかな体では、運動時間を増やす取組を充実させ、体を動かす習慣を定着させます。食育や情報モラル教育等を充実させ、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立を目指し、健康で活力のある児童生徒を育成します。

なお、食育の充実についてですが、因北小学校は、栄養教諭配置校となっています。現在、因北小学校の敷地内に因島学校給食共同調理場を建設中であり、令和7年度から重井中学校、因北中学校へも給食の提供が始まります。小中学校ともに同じメニューでの提供となりますので、学校給食を中心とした食育指導も、栄養教諭を中心に9年間を系統的に実施することが可能となります。

また、部活動についてですが、今年度、重井中学校には、陸上競技、ソフトテニス、卓球、文化科学部があり、因北中学校には、陸上競技、軟式野球、サッカー、ソフトテニス、卓球、女子バスケットボール、女子バレーボール、吹奏楽、文化部があります。

再編後はスポーツ、音楽、文化、地域の特色を活かした太鼓・囲碁等、子どもたちの興味・関心に応じた選択肢のある部活動を再編成し、活性化を図ります。

「信頼」地域に開かれた学校づくりでは、小中一貫教育校で9年間の系統的な教育活動を編成し、小中一貫した教育を進めます。保護者や地域の力を学校運営に活かす中学校区が一体となったコミュニティ・スクールを導入し、魅力ある学校の実現を図ります。

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら

ら、子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。現在、尾道市では、半数の中学校区がコミュニティ・スクールとなっており、因北中学校区は今年度からコミュニティ・スクールとなっています。

来年度は重井中学校区をコミュニティ・スクールとする予定としており、令和9年度にはコミュニティ・スクールとし、スムーズな移行ができるよう環境を整えてまいります。コミュニティ・スクールにすることで、地域の方が授業のゲストティーチャー、児童生徒の学習支援、学校と地域の合同行事等、地域の方が学校へ参画しやすい体制づくりを行い、児童生徒の学習や体験活動の充実を図ることが期待できます。

現在の2中学校2小学校の地域・学校・人的な資源を1中学校1小学校に集中的に運用することができるようになり、より一層子どもたちの教育環境が充実し、学力の向上や健やかな成長を図ることができると考えています。スライドは、現在の重井小学校、因北小学校、重井中学校、因北中学校の学校経営の方針をまとめている学校経営構想図です。

資料4-1、4-2、5-1、5-2も併せてご覧ください。

2つの小学校と2つの中学校がそれぞれ学校創立から培っていた、たくさんの特徴等を意識し、小中一貫教育校として融合し、9年間の学びの系統性を整理し、新たな教育内容を創造してきたいと考えています。

そして、小中の教職員が、同じベクトルで一貫した教育内容を指導することで、小学校段階で身に付けた資質・能力を、中学校でさらに定着・深化させ、子どもたちの確かな進路実現・自己実現を目指していききたいと考えています。

スライドに示しておりますこの画面は参考になりますが、小中一貫教育校で児童生徒が成長した姿を発表するイメージ例です。左側は、小学校での学びの集大成として、総合的な学習の時間等で学んだ「ふるさと学習」の学びを発表する場のイメージです。保護者や地域の方と、子どもたちの成長を喜び合いたいと考えています。右側は、中学校で、小中9年間の学びの集大成としての「因島からの政策提言発表会」のイメージです。夢の実現や社会的自立に向け、地域に貢献することのできる生徒の姿を、保護者や地域の方に見ていただきたいと考えています。このような因北中学校区小中一貫教育校の学びを、市内全体に発信・普及してまいります。

2-2 小中一貫教育校（因北小中学校）の施設について

ここからは子どもたちが通うこととなる、小中一貫教育校の施設について説明いたします。

榎原因島瀬戸
田地域教育課

<p>長</p>	<p>小学校は因北小学校の施設を利用します。因北小学校は昭和42年に中庄小学校、外浦小学校及び鏡浦小学校を再編して、因島市立因北小学校が開校いたしました。開校当時は、1号棟・2号棟だけでしたが、児童数の増加に伴い、昭和55年に3号棟を増築しました。その後、平成18年、尾道市との合併に伴い、校名を尾道市立因北小学校と変更しました。そして、平成19年に、尾道市立大浜小学校を学校再編し、現在に至っています。</p> <p>こちらは、因北小学校の施設配置図です。因北小学校は因島中庄町の中心部にあり、敷地面積約2万㎡の中に1号棟・2号棟及び3号棟からなる教室棟と体育館・プールがあります。教室棟は平成22年から平成27年にかけて、それぞれ耐震補強工事を行っています。現在、学校敷地内に因島学校給食共同調理場を建設中です。それに伴って、調理場建設場所にあった遊具を撤去し、昨年度、グラウンドの別の場所に新たに6基の遊具をリニューアルしております。</p> <p>続いて、中学校は、因北中学校の施設を利用します。因北小学校と同じく、因島中庄町の中心部にあり、小学校から徒歩5分、直線距離にして約350m離れた場所に、因北中学校があります。因北中学校は、昭和22年に御調郡中庄村立中庄中学校から始まりました。その後、昭和27年に、御調郡学校組合立因北中学校、昭和28年に因島市制に伴い、因島市立因北中学校と校名を変更しました。そして、平成18年に尾道市との合併に伴い、現在の尾道市立因北中学校になりました。</p> <p>こちらは因北中学校の施設配置図です。敷地面積15,632㎡の中に3階建て校舎1棟と体育館があります。平成18年・平成22年に校舎・体育館の耐震工事を行っています。校舎前にはテニスコート、またグラウンド西側には自転車通学する生徒のための駐輪場があります。また、現在、敷地内に新しい屋外トイレの新築に着手しており、今年度中の完成を見込んでいます。</p> <p>また、尾道、因島らしさのある9年間の学びの創造に向けて、教育内容の充実を図るために、教育環境の整備として、主に次の2点を考えています。1点目は、ワーキングスペースによる学び合いの充実です。学級活動だけではなく、異学年や縦割り活動を仕組みやすくなり、個や集団による学び、グループで話し合ったり、プレゼンテーションをしたりする等、より学習の幅を広げることが可能になります。</p> <p>2点目は、専科教室等による教科指導の充実です。例えば、英語教室として活用する場合、教室全体の掲示物や座席配置等を工夫し、普通教室で学ぶより、英語を学ぶ環境を充実させることができます。そのため、</p>
----------	---

<p>安 保 学 校 経 営 企 画 課 長</p>	<p>現在の図書室や研修室等を活用し、多様な学習活動が展開できるワーキングスペースの設置を検討するとともに、空き教室を活用した専科教室等を創出していきたいと考えています。</p> <p>2-3 通学路の安全対策と通学対策について</p> <p>次に、通学路の安全対策と通学対策についてです。</p> <p>通学路の安全対策については、子どもたちの安全・安心な通学という面で、非常に重要であると考えています。尾道市では通学路交通安全プログラムにより、通学路の安全対策を実施しています。これまで、この地域の通学路の安全対策として、重井小学校では水路側にガードパイプの設置やブルーラインの引き直しの対策を実施しています。因北小学校では、横断歩道、停止線の引き直しや注意喚起標示、交差点マークの施工を実施しています。</p> <p>通学道路の安全対策については、今後、小中一貫教育校準備委員会（仮称）の中で、学校・保護者・地域・道路管理者・警察・教育委員会等が合同で通学路候補となる道路を点検します。合同点検の中で抽出された危険箇所については、尾道市通学路交通安全プログラムの中に組入れ、対策を検討し、改善を図っていきます。</p> <p>次に、通学対策についてです。本市では通学対策の対象となる児童生徒の基準として、通学距離が小学校概ね3km以上、中学校概ね5km以上の場合としています。通学対策の実際として、通常利用すると考えられる通学路を路線バスが運行している場合は、路線バスの定期券を支給しています。路線バスでの通学が困難であると認められる場合には、スクールバス等の運行を実施しています。</p> <p>中学校の自転車通学では、重井中学校は、通学距離に関係なく、希望者に自転車通学を許可しています。因北中学校は通学範囲、通学できる地区を設けて自転車通学を許可しています。市内全体の状況や現在の重井小中学校、因北小中学校の現状を踏まえた上で、小中一貫教育校準備委員会（仮称）の中で通学対策の在り方、自転車通学も含めて検討していくこととなります。</p> <p>3 今後のスケジュール（案）について</p> <p>次に、3 今後のスケジュール（案）についてです。ここに提示しておりますのは、大まかな今後のスケジュールになります。令和7年度からは学校再編が決定したと仮定してのスケジュールとなります。</p> <p>令和6年度は、重井中学校区保護者説明会・地域説明会、因北中学校区保護者説明会・地域説明会を実施していきます。重井小中学校の保護</p>
--------------------------------	--

<p>司会者</p> <p>「重井小学校 重井中学校統 合問題懇談会」</p>	<p>者からは、「学校選択制度の募集までには方向性を示して欲しい。」との要望を受けておりますので、学校選択制度募集要項を送付する10月初旬頃を意識した取組を進めてまいります。</p> <p>令和7年度は、因北中学校区小中一貫教育校準備委員会（仮称）を立ち上げ、教育内容、通学対策等を協議していくとともに、児童生徒間交流を実施していきたいと考えております。</p> <p>また重井小中学校の閉校記念事業実行委員会の立ち上げについても検討していき、令和8年度末には、重井小中学校閉校式、閉校記念事業を実施できればと考えています。</p> <p>そして、令和9年度から因北中学校区小中一貫教育校をスタートしたいと考えています。保護者の方が心配されている学校再編時の教職員配置についても、児童生徒が安心して学校の環境に慣れることができるよう配慮してまいります。「子どもたちの未来を拓く」ために、保護者・地域・学校・教育委員会で力を合わせ、小中一貫教育校による新たな学びを創造してまいります。</p> <p>以上で重井小中学校の学校再編についての説明を終わります。</p> <p>（質疑応答）</p> <p>続いて質疑応答を行います。事前に地域の方から、説明したいことがあると聞いておりますので、そちらの方を見ていただいた後、ご質問を受けていきたいと思っております。</p> <p>（スライドで説明あり）</p> <p>これから見ていただくのは、広島県の2000年度以降の小学校の再編事例で、今回のように2つの町に跨ったケースというのを紹介をしたいと思います。</p> <p>これは、町内の区長会、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、小中PTAの代表で、今回、「重井小学校重井中学校統合問題懇談会」というのを立ち上げました。そこで作成した資料です。この町から学校がなくなるというのは初めての出来事なので、よその市町がどういう形で再編されているのかというのをちょっと調べて、それをまた参考に、より良い再編ができればいいなと思って作らせてもらったものです。</p> <p>座って失礼します。次はですね、福山市です。これは赤い字はですね、新しい学校名というふうに受けとめてください。遺芳丘（いほうがおか）小学校、2020年の4月に統合されました。</p> <p>福山もう1例であるんですけども、これ、ちょっと注目して欲しいんですけども。山野小学校2名と、加茂小学校634名、これは再編前</p>
---	---

の児童数がありますけれども、加茂ところ、括弧2代目、3代目とあります。これはどういうことをしたかといいますと、受け入れる側の加茂小学校も、一旦閉校式を行っております。

従って、旧加茂小時代の写真。例えば、校長室に歴代の校長先生の写真がありますけれども、全て撤去したそうでございます。そして2023年度の卒業生を、加茂小の第1回卒業生とするという。こういう形で、要は学校がなくなり、山野地域の住民に対する配慮を行ったという、こういう事例であります。

続きまして、呉市です。これは赤い字は新しい学校です。これはもう簡単にいってます。こういう例もございます。倉橋町ですね。明德小学校というところと、音戸町の3つの小学校が一緒になりました。そして明德小学校になったんですね。

これ、ちょっと、なぜこうなったのかとお伺いしますと、校長先生がですね、組合立だったので、スムーズにいきましたと。明德というのは、江戸時代の藩校のような格好で、非常に由緒ある名前なので、問題ありませんでした。ただし、校歌校章校旗を新しくした。そのことによって、音戸町の住民の方々が大変喜んでくれて、非常に協力的な、学校運営ができていますというふうに校長先生がお話ししてくれました。こういう例もございます。これも先ほどの加茂と同じケースであります。一旦閉校式を行っております。これはですね、落走（おちはしり）と吉浦小学校は人数が近いので、比較的。なぜ吉浦小学校になったんですかとお聞きしますと、ここの2つの町はですね、町民運動会を一緒に行う等、交流が非常に盛んな地域であったという。だから、校名については、何も議論はありませんでしたというふうに校長先生がお話しになりました。これは生徒数が48に対して495。1対10という割合であります。

続きまして三原。これも沼北（ぬまきた）という新しい校名の学校が誕生しました。

続きまして三次なんですけれども、これもお聞きしますと、公民館活動を一緒に行う等、交流が盛んな地域であったと。1つの公民館をこの2つの町で一緒に使っておると。で、同じコミュニティであるというふうな説明がされました。正直、ちょっと、コミュニティの意味は、ちょっと私、理解できませんでしたので、公民館を一緒に使っておると。これも同じ例であります。いずれも三次の教育委員会の方が説明してくださいました。

続きまして、府中。これは両方とも新しい校名となっております。

続きまして大竹ですけれども、これは6に対する254。

15に対する691というふうに、児童数が極端に違うということ

で、こういう形になったんだらうと思われます。これも呉の例であります。

竹原。これも9に対して335で、竹原小学校になっております。

続いて田万里（たまり）小と荘野（しょうの）小、これもですね、非常に児童数が近いもんで、これ、竹原の教育委員会にお伺いしますと、2つの子ども会が荘野小のプールを一緒に使うと、そういうふうな交流があったと。それと、もうずっと小学校5年生の合宿と6年生の修学旅行はもう合同で行っておったと。つまり、学校間、地域間の交流が非常に盛んであったというふうな説明を受けております。従って、校名については議論にならなかった。

最後に尾道市です。久山田と栗原が32に対して825。東生口、これは瀬戸田小という。なぜこうなったか、経緯についてはこれは調べておりません。2007年に大浜26に対して、因北小が当時321名という1対10の比率であったわけであります。これもご存知のように2015年に因島南小学校が誕生しました。

続いて2017年に4つの小学校が一緒になって美木原小学校というのが誕生しました。

そして、先ほども言いますけども、2025年4月開校予定の尾道みなと小学校、これが2つの町に跨るですね。県内の再編の全てであります。今のですね、ちょっとまとめると大きくまとめるとこうなります。新しい学校名となっているケースがたくさんあります。全てではありません。新しい学校名となっていない場合ですね。なってる場合は、地域間の交流が非常に盛んであった。だから、校名については議論にならなかった。この地域間の交流が盛んであったというのは非常に大きなキーワードだったと思います。

だから、校名は変えなくても、学校への支援体制というのはしっかり続けられたんじゃないかなと、このように考えています。もう1つは児童数に極端な差があった場合、これは数の多い方の校名となると、これが県内の小学校の再編の全てであります。

最後見ていただきたいのが、今回のこういう数字ですね。重井が51、因北が295です。比でいえば1対6という。先ほど極端な差というふうな話をしましたけれども、皆さんでこれは感じ取ってもらえたらなと。これが実は8月現在の数字なんですけども、さらに注目していただきたいのは、再編後の数字です。再編後こうなります。小学校再編後の、これは新入生の数です。

令和9年、重井は9に対して、今の因北小校区が29名、1対3ですね。令和10年は12に対して27。2. いくらですね。令和11年が

	<p>10対23。令和12年が6対20。これが再編後の学校の児童数になるわけです。</p> <p>教室の中の約4分の1から3分の1の子どもたちは重井の子だということになります。ただし、これから後については、これは勝手なことは言えません。どうなるかわかりません。我々のイメージとして向こうはでかいだろうという。でかいから仕方ないという。ただ現実はどうなんですかね。この数字は教育委員会さんから提示していただいた数字から拾い上げたもので、勝手に作ったものではございません。</p> <p>改めて、最後に、これを紹介して終わりにしたいと思います。地域間の交流が盛んであった場合には、校名を変える必要はないわけです。そこに重井と、あと4つの地域を囲んでありますけれども、この地域間の交流が盛んかどうかというのはそれぞれのところで感じとって考えてもらえたらと思います。</p> <p>そして、児童数に極端な差があるとかという状態です。1対、多くて1対3。いくらという。これが令和9年以降の、この町と因北校区の町の子どもの数ということです。重井はご覧のとおり、よく頑張っております。9、12、10というね。減ってないんですねこれが。向こうの方はちょっと大きく減って、これもやっぱり実は残念な話であります。うん。因島全体のことを思えば、もっともっとたくさんおって欲しいんですけども、ただ、現実こうであるということでもあります。はい。</p> <p>以上が、県内の状況と、重井と因北校区のこれからの子どもたちの状況であるということです。これ、このことを1つの参考資料にさせていただいて、学校再編の在り方そのものを、今日はしっかりとこの場で意見していただいて、子ども、保護者そして先生方が、本当に安心して働ける、学べる、そんな学校になることを期待して、私からの提案は終わりいたします。ありがとうございました。</p>
事務局	他に質問、意見等ございましたら、挙手をよろしくお願いします。
質問者A	資料によりますと、因北小学校、因北中学校という名前が出ておりますけれども、どういう状況によって、こういう名前を選択されたのか。ちょっと教えていただきたいと思います。
小柳学校教育部長	現在、因北小学校、因北中学校に、重井小中学校を、再編していただくような案を出させていただいております。これについては、当初から意見交換会をさせていただく中で、重井の地域の意見交換会の中では、そういった意見を、直接いただきましたけれども、他の地域であります

	<p>とか、保護者の中からそういったご意見は、直接、私たちの耳には入ってこなかったですし、保護者からいただいた要望書の中にも、そういった声は入っておりませんでした。私たちは、重井小中学校の子どもたち、今後入学する子どもたちを含めて、まずは教育環境の充実を早期に図っていきたいということで、因北小中学校の方へ、まずは来ていただいて、そこで小中一貫教育校として新たな学びを創造して、子どもたちの育成を十分に図っていきたいということで、今日こういう提案をさせていただいております。</p>
<p>質問者 A</p>	<p>新たな学校を創るという、こういうふうなお話の中で、名前も考えるだろうと、こういうふうに私たちは思っておりました。多分、町民の皆様もそういう認識であったのではないかなというふうに考えておりますし、私は新聞でしか、教育長さんのお話を伺ってはないんですけども、「合併の仕方は対等ですか。」といろんな質問をされた時に、教育長さんは「対等なんです。」とこういうことを言われたやに新聞で拝見させてもらったんですけども、「対等」という問題があった中で、ここで「対等」ということで、語気を強められたとこういうふうに言われておるんですけども、教育長さん、何か思いがあったんでございましょうか。</p>
<p>小柳学校教育 部長</p>	<p>教育長が、多分8月21日であろうかと思っておりますけれども、私たちが議員説明会をした後に、囲み取材を受けられたということはございます。その中で、様々な質問を記者の方からいただく中で、そういうふうなニュアンスで捉えられたのかもしれませんが、そういった「対等」という直接的な言葉を用いてはおられないというふうに、私も傍にいて思いましたけれども、しかしながら、当然、重井小中学校を、これまで支えてくださった地域や保護者の皆様、それから、今後、尾道の将来を担う重井の子どもたち、そういったことを考えた中で、やはり重井小中学校を大切にしていきたいという思いは当然あるということをお客様方に話をしていったということだというふうに思います。</p>
<p>質問者 B</p>	<p>今の回答の件なんですけど、3月5月についての意見交換会の時に、教育委員会の方から、「これは対等な合併である。」という言葉が何回も聞いたと思います。そういうつもりで、重井も大切にしてもらって、この合併の話があるんだなあというふうに思うていたんですけど、今の説明を教育長さんが言われたかどうか、ちょっと分かりませんが、意見交換の中で、「対等の合併である。」というような話は出てきとったんじゃない</p>

<p>宮本教育長</p>	<p>いかなと思うんです。はい。そこら辺はどんなんでしょう。そういう説明はなかったでしょうか。</p> <p>はい。先ほどの「対等」というお話があったんですけども、私の思いは、因北小学校、因北中学校が今行っている教育がありますよね。それに、重井小学校、重井中学校の子どもたちが、因北小、因北中に行くことになった時に、因北小学校でやっている教育に、そのまま、なんていうか、吸収されるような学校再編というのは、私は望ましくないと思ってるわけです。ですので、この重井地域には非常に歴史があり、教育に対して、皆さん非常に熱心にこれまで取り組んでおられますので、やはり、因北小にも良いところ、因北中にも良いところがあるし、重井小学校にも良いところ、重井中学校にも良いところがある。それらを合わせて、新しく教育の中身を再構成するという意味で、「対等」という言葉がちょっと私はどうかとは思いますが、そういう、再構成して新しい教育を創っていくんだという意味でお話をしました。そういうふうにご理解をいただけたらいいんじゃないかなと。</p>
<p>質問者C</p>	<p>所属はありません。一住民です。この説明会を聞いてて、なんかすごく違和感があったんです。それで、その違和感は何かなと思ったら、今お二方の質問にあったように、言葉では「再編再編」「教育の環境がより充実されていく」そういうふうな形で、言葉ではすごく良いんですけども、じゃあ、小中学校が一貫校になったらそうなるよっていうふうに説明されるんですけども、小学校と中学校、今のままで、どうしてそういう教育環境を充実をさせていけないのかということが、すごく不思議です。</p> <p>それと、今の学校教育部長の小柳部長から、「因北小学校、因北中学校に来ていただく。」というふうな発言があったんですが、重井小学校と因北小学校が再編成されると、それで新しい学校ができると。じゃあ、重井小学校が閉校して、因北小学校が閉校して、新しい「因島北小学校」ができるというふうなことであれば分かるんですが、「因北小学校へ来ていただく」っていうふうな部分では、何かちょっと違和感があるんですね。</p> <p>因島の因島南小学校が三庄小学校・田熊小学校・土生小学校が統合された時に「因島南小学校」になった。その時に私たち住民は、今度は重井小学校と因北小学校が統合されて、因島の北に「因島北小学校」ができるんだなと思ったんですね、その時に。わざわざ「因島南小学校」と名前を付けた時に、既には因北小学校があったから、ひよっとしたら「因</p>

南小学校」になるのかなと思ってたら、「因島南小学校」になった。今度は、重井小学校と因北小学校が新たに統合されて「因島北小学校」になるんだというふうにその時に思ったんです。

因島の中で、片一方は「因島南小学校」で、北の方は「因北小学校」では、なんかちょっとすごく違和感を持ちます。名前の時点で、きちんと、やっぱり、先ほどスライドで説明があったように、重井町と中庄町というのは、あまり同じいろんなことをするとかという、そういったコミュニティがないんですね。そういう中で、やっぱり重井の住民としては、新しい「因島北小学校」へ、重井小学校が新しくなったんだというふうなことであれば、住民はすごく、気持ちとしては嬉しいですし、「因北中学校に来ていただく」「行かせていただく」のではなくて、新たな小学校で、子どもたちも、住民も子どもたちを支えていくというふうな考え方を是非持ちたいと思います。

質問者D

先ほど、「因北小学校の説明で、他の地域から異論はなかった。」と言われたが、それは出んですよ。中庄から出るわけがない。「保護者から出なかった。」と言われたが、保護者に全てを言われるのはおかしいと思いますよ。保護者は、自分の子どもの安心安全な通学路、どうなるんだろうか、そこでもう一杯いっぱいだと思う。やっぱり、これからの地域を考えての校名というものは、やっぱり大人がしっかり考えるべきだなあと。

我々は6月の終わりに話し合いをもって反対をしました。だから、今日改めて、なぜ「因島北」よりも「因北小」の方が、名前として、重井の子どもたちや、重井の住民や保護者に対して、「因北小」の方がいいんだという説明をきっちりして欲しいんですよ。

これね、もし、このまま「因北小」「因島南」となったら、ずっとクエスチョンが付きまといますよ。ずーっと永遠に付きまといますよ。だから、なぜ、重井の町にとっても、「因北小学校」が望ましいのかという、そこをきっちり説明をしてください。

質問者E

先ほどの内容とか話で、ちょっと疑問に思ったのは、「統合統合」と言っていますが、「吸収合併」しかないような気がしてならないんです。なので、「保護者から学校の改名の要望はない。」とおっしゃいましたが、私は学校を「因北小」ではなく「因島北小学校」と改名して欲しいです。

そして、この資料にもあるように、7ページ、教育内容について、「グローバルとローカル、尾道（因島）」となっていますが、ローカルは地

	<p>域とかという意味だと思いますけれども、このまま因北小学校、因北中学校へ合併となると、重井の町民の方は、快く協力ができないと思うんです。なので、学校名は私はちょっと大事だと思います。「因島南小学校」に対して、「因島北小学校」にするべきではないかと思います。そして、校歌に対しても、今まで重井小学校の校歌を歌ってきた子たちが、因北小学校に行って、因北小学校の校歌を歌うのはちょっとどうなのかなと。この「ローカル、因島らしさ」を愛するのであれば、重井地区も同じように学ばせて欲しいし、重井のことも考えた校歌を創って欲しいと思います。</p>
<p>質問者 E</p>	<p>因北小学校の改名は、もし、保護者要望が欲しいと言うのであれば、学校で、また意見交換をして要望を出そうとは。要望を出せば、今後小学校の改名はあるのでしょうか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>校名について、今いろいろなご意見をいただいておりますけれども、これはまあ、様々な考え方があるというふうに思います。ですから、今日、このように私たちの説明会の場ではありますけれども、こういうプレゼンをされたいということで、じゃあやってくださいということでやりました。本来であれば、多分、学習会等を開かれてやる中身ではあったんじゃないかというふうに思いますけれども、改めて私たちも勉強させていただいたところではあります。ですけれども、現在のところは、校名について、様々な意見を、今いただきましたけれども、これまでそういった議論があまりされてなくて、今日こういうふうな意見をいただいたところで、また今後、ちょっと持ち帰っていかないといけないと思っております。ですけれども、これは、重井の地域説明会をさせていただいておりますけれども、当然、因北地域、因北中学校区の地域の皆様のご意見もお伺いしなければいけないですし、同じ重井中学校区の中でも、小田浦地域の皆さんのことも考えないといけないですし、そういった皆様方のご意見をお伺いする中で、そういった機運がどのようになっていくのかということはあるんじゃないかというふうに思います。</p> <p>私たちは、今日、「因北小学校」「因北中学校」という校名で提案をさせていただきましたけれども、これは、これまでの、先ほども申しましたけれども、意見交換会を繰り返し行う中で、子どもたちにまずは教育環境の充実を図っていただくために、どう言ったらよろしいのでしょうか。校名というよりも、教育環境の充実、それから安全安心な通学対策、そういったものを優先して考えてきてました。これは、保護者の方ともお話をする中で、そういったことを優先していただきたいというご意見</p>

をもらいながら、私たちが今日勝手に提案しているものではないんですけれども、そういった声もお伺いして、今日提案させていただいております。で、また今日、また様々な意見をいただいておりますので、こういった意見も出たということ、当然、因北地域の方にも投げかけながらいかないといけないと思っておりますけれども、最終的に校名がどうなるかどうかというのは、現段階ではまだ分からないということです。教育委員会の思いとすれば、これまでの経緯からすると、因北小学校、因北中学校でできるのであれば、そういった教育環境の充実や通学支援、子どもたちに何ができるかという視点でとか、保護者の方に安心していただけるような学校を創っていきたいというのが1番の思いではあります。

質問者F

先ほどから、目指す将来の教育像といいますか、教育内容については、非常に詳しいといいますか、ここまで出しているのかというふうな説明がありましたけれども、今話題になっているのは校名だと思います。前回2回参加しましたが、校名に対する検討というのはなかったんじゃないかと思えます。最後に〇〇さんが一言おっしゃっただけで終わったんじゃないかなと私は思っております。

それで、今回の新聞報道は、前回2回の後、突然、新聞に、校名も含めて載ってございましたけれども、その後、私が、ネットのスマホのですね、RCCの中国放送ニュースのデジタル版を見たところ、このように載っていました。ちょっと紹介させていただきます。「尾道市教育委員によりますと」という見出しで「統合の説明がありました。説明文の最後に、校名については、変更する考えはなく、地域から意見があれば『検討する』としています。」ここでRCCデジタルニュースは終わっています。つまり、校名は変更する意思是、考えはないというふうに書いてある。けれども、地域からの意見があれば検討すると書いてあります。このニュースは正しいのでしょうか。間違いなんでしょうか。そこからまずお答えいただけたらと思います。

小柳学校教育長

RCCがそのような報道をされたということは、RCCさんはそのような認識ではないかと思えます。先ほども言いましたが、議員説明の後に、私たちも個々、質問を受けたり、教育長が囲み取材を受けられたりしておりますけれども、やはり記者の方たち、皆さんの受け止め方とか様々おありでしょうから、そういった受け止めたことを書かれたのだらうと思えます。

ですから、どの記事が正しいとか正しくないというのはなくて、すべ

	<p>て正しい記事だと思いますけれども、そういう受け止めをRCCさんはされているのではないかと思います。</p>
<p>質問者F</p>	<p>では、誰かがおっしゃられた言葉を引用されたということでもいいんでしょうか。</p>
<p>小柳学校教育 部長</p>	<p>報道のされ方というのは様々ありますけれども、そのまま言ったことがそのまま記事に載るということは、私の経験からもそんなにないです。どう言ったらいいんですか、要約されたり、縮小されたり、あるところを切り取って報道されたりということはありますから、そういう部分ではないかというふうに思います。</p>
<p>質問者F</p>	<p>はい。分かりました。ということは、ここに載っている「変更する考えはなく」という文章は、これはなかったというふうに思っていますか。</p>
<p>小柳学校教育 部長</p>	<p>先ほども私、申しましたけれども、その時はそうだったのかもしれませんが、というのが、今日の提案に至る経緯も話をさせていただきましたけれども、このようにたくさんの方から校名の話は初めて、今日伺っております。</p> <p>ですから、先ほど、これも申しましたけれども、因北地域等とも話をさせていただきながら、機運が高まるといいますか、そういうふうになってくるかどうか、これから私たちも持ち帰っていかなければいけないと思っております。</p>
<p>質問者F</p>	<p>はい。分かりました。校名については、今までこういうふうな機会はなかったというふうに私は認識しておりますので、是非この機会にいろいろな意見を聞いていただいて、検討していただきたい。そして、その途中経過でもいいですから、説明会なり、途中経過を説明していただきたいと思います。突然新聞に、来年の2月、定例会で発表ということにならないように、是非とも検討した結果、理由、そういったことを地域に詳しく説明していただきたいというふうに思っております。以上です。</p>
<p>質問者G</p>	<p>はい。ありがとうございます。結局、小中教育一貫校の説明は大変興味深く伺いました。</p> <p>ただその、学校名のところは、重井町民かなり気になっているところ</p>

ではあるんですが、先ほど、小柳さんは「因北地区の意見も聞かないと校名は変えない。」というようなお話しをされておりましたが、重井からこれだけ話が出て、因北地区、中庄町地区から「いや、校名変えたくない。」という声が出たら、それはそのまま「因北小学校、因北中学校」という考えをお持ちになって、説明にこちらに来られるのがすごいい気になるところではありました。

あとは、うちの子どもも重井小学校、中学校を卒業したんですけども、もっと言うと新しい学校を創って、PTAの規約ですよ。どうしても、今の既存の因北小学校、中学校へ「こちらから行く」というふうになると、意見が言えなくなる場合があるんです。子どもたちの周り以外ですね。やはり大人のほうも、教育長さんも言っていたが、対等ということはないかもしれないですけども、やはり新しい学校を創る上では、PTAの内容に関しても、新しい学校に進められるよう、教育委員会の方から提言される方がスムーズにいくんじゃないかなと思います。

質問者 H

今のに関連になるので言わせてください。

さっき、小柳部長から言われたように、「因北小の保護者の説明会だったら、そこでどうなるか分からない。」みたいな意見だったんですけど、それは教育委員会の姿勢だと思います。今、スライドにもあったけど、重井小学校の閉校式と重井中学校の閉校式が、令和何年かというふうに計画されておりました。じゃあ、因北小学校、中学校の地元説明会の時に、因北小学校の閉校式とか、中学校の閉校式とかというのは、どういうふうな形で、あそこが書かれるのか。

やっぱり、教育委員会が本当に「因島北」というふうな部分を思うんだったら、「因島南小学校」があるんだから、「因島北小学校」にしたいと、重井と因北小を合併して、「北」にしたいというふうな形で、教育委員会が積極的に、「因島北小学校、中学校」を提示していけば、因北小学校、中学校の保護者も、そんなに反対はないのではないかなと思うんです。そういう部分は教育委員会が、そのことを、校名のことをどう考えるか、そういう姿勢によると思います。よろしくお願いします。

質問者 I

校名のほうは、もうそれで決まったと思って、次の話題にいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

前回もお話ししたんですけども、給食の調理場が、今の女性の方の説明で、来年度からと言われましたね。ずうっと延び延び延び延びになって、今度、なんか、工事が遅れているからとか言いながら、もう、うちの子どもたちは、ずっと重井で育っていて、孫たちも重井へ行ってい

ます。そこで、給食がないということがずっと気になって、今度は因北へ行くから、1年生になったら給食が始まるね、良かったねと言っていたら、また遅れると言う。これでまたずっと1年間。この子供たちはいつ給食が食べられるんですかね。食育はすごい大切なことだと思って、今、日本国中、給食無償化とかという話があるが、「私たちには給食はありません。」といつも私テレビに向かって1人で文句を言ってるんですけれども。なんでそんなになるんですかね。令和9年といたら、今行っている子どもたちはいません。もう誰もいません。これから子どもを産む人も、ここには多分いないと思いますが。いい話ばかり出て、今後こうなりますという話ばかりで、現在いる子どもたちを大切にしようという気持ちが、一個も見えないので、それがもう悲しくて残念でたまりません。3年間ずっと無駄に過ごさすんですかね、この子供たちは。

広島県の子どもたちも学校へ行って、こっちへ帰ってこない。島の子どもたちは島へ帰ってこない。ポルノがこの間来た時には本当に嬉しかったです。あの子どもたちを、私が育てた子だから。因島高校にも来てくれてがんばってくれたり、いろんな良いところはいっぱいあるんです。たまたま、うちの孫が三連休の宿題で、「ばあば、重井に住んで良いこと、嫌なこと、悪いこと言って。」と言われたから、家族みんなに聞いてくるようにいう宿題だったからということで、私にもお鉢が回ってきたんですけども、親たちは、「広島からこちらへ帰ってきたのは保育所が入れられなかったから、急遽こっちに、マンションを売り払って、こっちに来て、保育所に入れない状況が広島でああいう状況で、日本国中ああいう状況だったからしょうがないいうんで、家を建て、子どもを見てもらうためにこちらに来たのに、何にも良いことなかった。」と親が言ったんですよ。私は、その話では宿題にならないわと思って、「白滝山もあるし、権現山もあるし、いっぱい良いことがあるが。お大師さんもいっぱいあるじゃろ。島四国もあって、ばあばも回ったりしてるよ。いっぱい良いことがあるが。」と言ったんですけど、「他に良いことは。」と言われても言えなかったんですよ。みんな、島から出て行っていますけども、子どもは。バス停にはいっぱい、朝になったらいて、みんな、うちの子どもたちはみんな因島高校出て、子どもたちも親も自分たちが育った重井小学校、重井中学校へ行かすいうんで、今3年生なんです。その子どもたちもこれから将来のことを考えたら、本当に悲しくなるんですよ。

今、教育委員会の方が、今の子どもたちがこのようにやります。このように育てたいと思いますというのが何にもなくて、理想の話ばかりで、これって何にも良いことないって。最終結論はどうなるのかなと思

<p>質問者 J</p>	<p>うぐらいですね。</p> <p>もうみんな、ここにいる人は誰もいませんよ、その頃には。理想を話してくれたけれども、どうなったんだろうかいうぐらいで、今いる子どもたちのためにできることを考えて欲しいと思います。以上です。</p> <p>もういっぺん、校名の話に戻したいですけど。新しい校名にすることに関して何か障壁はあるんでしょうか。</p> <p>それともう1点。中庄地区において、統合に関する説明会はもうやられたんでしょうか。もし、やられたとしたなら、どんな意見が出たのか。</p> <p>それと、現状のままでいくと、本当に吸収合併みたいな形になるんで、子どもたちは重井町からいなくなる。重井は一層寂れる。我々も重井町から子どもがいなくなって、完全に統合されたんだというイメージが後々までつきまとう。問題は子どもたちが、実際に新しい学校になると、今までの因北小中学校に行くのと、やっぱり気持ち的に全然違うと思うんですね。僕ら地域住民も新しい学校だから、なんとか協力したいよねと。新しい創造をしたいよねと。もっと協力できることはないかなというふうに考えますが、統合、吸収合併だという言葉が先行すると、いや、もう僕ら何もできないよと。向こうは向こうのやり方があるんやということになりかねないので、ひとつ、校名については真摯にもう一度取り上げていただいて、ゼロから考え直していただきたいというふうに思います。</p>
<p>小柳学校教育 部長</p>	<p>質問が2つあったというふうに思います。</p> <p>障壁はあるのかということですが、障壁があるかないかというところの直接的なお答えは、ちょっとそこまでのことはないんですけども、先ほどから申し上げておりますように、今の重井小中学校の児童生徒数の現状等を見た時に、教育環境充実の観点から、やはり、複式学級が生じている状況とか、クラブ活動の編成が難しい状況というのを一刻も早く解消して、子どもたちの教育環境の充実を図りたいという私たちの思いですね、それを早期に具現化したいということで、今日こういう提案になっております。そこはまずはご理解いただきたいことだいうふうに思うんですが。</p> <p>中庄地域への説明なんですけれども、これまで私たちがしてきた営みとすれば、因北小学校と因北中学校のPTA役員の方、それぞれ15人から20人ぐらいいらっしゃったと思いますけども、その方々にご説明させていただいて、地域の方には、まずは区長会長さん方ということで、5人の区長会長さんにお集まりいただいて、今、重井でこういう営</p>

	<p>みをしておって、令和9年4月に学校再編をということで、重井の地域や保護者の方にお話をしているのだという話はさせていただいております。その中では、本当に、重井の小学生中学生と一緒に学校になるんだったら、一緒に本当にいろんな活動もしたいし、教育活動も充実できるようにしていきたいということで協力といいますか、一緒にやってみましょうというような機運があったというふうに思います。</p> <p>今後なんですけれども、今月の終わりになりますけれども、因北小中学校の保護者の方に全体説明会、10月になりまして、因北中学校区5つの区長会があると思いますけれども、そこの地域の方、全てに対して、一同に会してということになりますけれども、地域説明会をさせていただく予定としております。</p>
<p>質問者 J</p>	<p>校名については触れる予定ですか。</p>
<p>小柳学校教育 部長</p>	<p>校名は、ちょっと持ち帰らせていただきたいと思いますが、例えば重井の保護者の方からはこういう意見が出てますとか、地域説明会ではこういう意見が出たんですよというようなことは、これは当然紹介していかなければいけないというふうに思っております。</p>
<p>質問者 K</p>	<p>因北中学校での保護者の説明会ということなんですけれども、重井町民の、今日皆さんの意見は聞かれて、教育委員会の方々にもある程度の認識はされたかなと思っています。その中でなお一層お願いしたいことは、今日の意見を網羅して、全て、中庄、因北中学校区での保護者説明会について説明していただきたいと思っています。</p> <p>重井では、こういう認識があってですね、歴史という、まあ、私、人間が古いですから、歴史ということが気になるタイプなんです。特に私が昭和29年に生まれた頃は、重井町は因北地区で最大の場所であった。単独で町内で小学校、中学校を運営していたという歴史の中で、すごく、その重井町に小学校、中学校がなくなるということの寂しさについては、大変辛い思いがしております。さっき、こちらに説明がありましたように、重井中学校と因北中学校を「再編」という言葉が書かれていますよね。ということは、今の中身でいくと、小中一貫校としての再編はあっても、中身については、重井中の再編、重井中のみの再編というような感じがすごくするんですわ。ということは因北中学校についても「再編」という言葉をあてて、重井の町民の皆さん、PTAの皆さん、それぞれ、新たな小学校、中学校を立ち上げて、それについては協力を惜しまないという認識を持っていますので、是非とも因北中学校にも、</p>

<p>質問者 L</p>	<p>説明会については、重井町での説明会の中身を、重く受け取っていただいて説明していただけたらと思います。よろしくお願いします。重井町の皆さんの思いは伝わったかと思っておりますので、よろしくお願いします。以上です。</p> <p>重井小学校の1年生と3年生の子どもがおります保護者です。私自身も重井小中の卒業生です。この学校再編の話を聞いたのが、上の子が2年生の最後の方に聞きまして、その時は中学校の話だけ聞いて、小学校はまだ先かなと思っていたんですが、4月か5月ですかね、小学校も統合するという話も初めて聞きまして、その時、息子が1年生に入っただけだったんで、ちょっと衝撃を受けてしまいました。子どもたちは因北小に行くということについては「嫌だ。」と言っていて、気持ち的にはちょっと壁があるみたいです。メリットもあるよねというところで、「友達もいっぱい増えるし、いいんじゃないの。」と言っても、「自分たちは少人数での重井にいたい。」と、ちょっと子どもなので、偏った見方もあると思うんですが、そういう気持ちが強いというところあります。良いところをフォーカスして、良いように気持ちを持っていただけらなと思ってはいるんですけども、やっぱり、新しくできる学校が、子どもたちにとっても、ワクワクして魅力的で嬉しいような学校になればいいなと思います。</p> <p>この資料の8ページ目のところの3つ目のポチで、新設校にして欲しいとか、新しい校歌校章を創るというのと、前回の〇〇であった説明会で初めて見まして、私にはこういう発想がなくて、単に吸収されるようなものをイメージしていたので、「お、これはいいな。」と、これはすごい「私の気持ち的にはいいな。」と思ったんで、是非このような前提で検討していただけるといいなと思いました。</p> <p>私個人的なちょっと思いもあって、このあたり、新しい小学校、中学校が因島北地域にあれば、それはそれでいいんですけども、因島全体での少子化というのは、もうどんどん進んでいっているわけで、一発逆転して何か人を増やせるかということとは中々ないと思うんですよね。じゃあ、人が喜んで来てくれるようなことって、私が考えたのは、新しい校歌をポルノグラフィティに創ってもらおうというのはどうか。</p> <p>子育て世代が移住したいと言ってもらえるような明るい学校にしたら、私も子どもたちも、とても夢があって嬉しいなと思いました。実際この町に、ポルノグラフィティがはっさくんの歌とか作って、お金はかかったようですが、重井小学校、大変立派な校歌がありまして、木下夕爾さんが作詞して、たぶんその時、結構予算を使ったと思うんで、ちょ</p>
--------------	--

<p>質問者M</p>	<p>っとここは、新しい小学校、みんながワクワクして未来志向というところで、そういうところにお金を使ってもらって欲しいなと思いました。という意見です。</p> <p>上の子が今、年長児で、来年小学校に上がります。統合するということを知って、幼稚園から小学校に上がるというだけでも、環境の変化がだいぶ大きいと思うので、統合するならば、早くその環境に慣れさせたいと思って、因北小学校への進学を考えてはいるんですけども、重井町から因北へ行くには、学校選択制度というものを利用しないといけないとお聞きして、しかもその学校選択制度というものには人数制限があって、資料1にあるように、令和7年度1年生になる子は重井町で13人で、その13人の保護者の方が、私のように早くから因北に慣れさせたいと思われているなら、その人たちがみんな行けるのか。それとも今までどおり、5人なり10人なり、その因北へ行ける人数が決まっていて、その枠から外れた子どもたちは、2年間重井に行って2年後に因北へ行くことになるのか、それが聞きたいです。お願いします。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>学校選択制度に係るご質問でございました。これまで重井の皆様方とお話をする中で、「学校選択制度があるから、重井の在学する子どもさんが減っている。」という厳しいご指摘もいただいているところでもあります。これについては、市内一律の制度ということで運用させていただいておりますので、重井地域だけ特別に、そういう学校選択制度をしているわけではないことはご理解いただければというふうに思います。</p> <p>来年度は13人新入学予定者がおります。今、公表はしておりませんが、来年度因北小学校の予定10人枠を考えて、多分10月の初旬には公表されるというふうに思うんですけども、これは、確か、保護者の意見交換会だったか、地域の意見交換会だったか、同じ意見が出ました。その時にお答えしているのは、10人を超えた場合には、やはり今こういった提案をさせていただいているところですので、教育委員会において、やはり希望する方のお考えには添っていかないといけないとなっていることは思っております。ただ、その、地域の方からすると、それがどういうことになるのかというと、結局そうなってくると、重井小に入学する子どもさんが少なくなっていくということになるんですけども、選択されるのは保護者の方ですから、私たちから言うのは、そこは十分配慮していきたいということを申し述べておきます。</p>

質問者N

重井小学校中学校の卒業生。そして、孫が今、重井中学校の2年生に
おります。この資料を見てると、来年1年生が5ですかね、5、入学す
る予定ですよね。さっき学校選択制度というのを言われたんですけど、
ごめんなさい、これ、人から聞いた話でちょっと確実性はないんですけ
ど、今の重井中学校の1年生は3人。12人が因北小学校に行きました。
で、なんか、13人がくじを引いて、1人がなんか落ちて、仕方なく重
井中学校に来たとかってというのが、ごめんなさい、これちょっと噂なの
で確実かどうか分かりません。とにかく、1年生3人です。で、さっき
の来年小学校へ入られるというお母さんおっちゃったんですけど、もうこ
れ合併が決まったら、極端に言ったら、今の小学校の6年生はみんな
因北に行く可能性もありますよね。可能性、可能性ですけど。それが
例えばゼロだった場合、今の2年生が11で、1年生と合わせて14し
かない。で、もうこの合併の時期は決まったもので、早くとかはもう
ならないんですよ。もうゼロゼロで来る可能性もないとは言い切れな
いと思うんですよ。やっぱり親の気持ちとして、合併するんだったら、
人数少なくて、特に中学校、部活とかも少なくなるし、余計にまた少な
くなる。さっき小柳部長が言われたように、高校野球なんかでも、どう
いうんですかね、2校とか3校とか一緒になってやる、そういう交流。
昔、私らが中学生の時に、「中学生祭」とかっていって、因北中学校と
交流もあったりしたんですけど、今はどんなんかは分からないですけ
ど、一緒に部活動をする。学校の先生たちも、家庭科の先生とかも因北
とか時間数の関係で、とても気になっている先生もおられるので。だか
ら子どもたちとも、毎日は無理かも分かんないけど、野球をやりたい子
がおったら因北に行くとか、そういう、3年後ですか。3年しかないけ
ど、教育委員会としては、そういうふうに、例えば、極端に言っても、
少なくなって、10人以下で中学校なっても、令和9年の合併時期はも
う変えれないということなんですかね。

ちょっとうまく自分の言葉で言えないんですけど、人数少ないと
先生方も一所懸命ねえ、運動会も今年も20何人で、よくしてくださ
ったと思うんです。結局、子どもたちも本当に休憩しながらか、どうか
こうにか午前中ね。先生方も楽しいことを体験させてあげられるよう
に、本当によくしていただいています。すいません。ごめんなさい。な
んか、うまく言えないんですけど、どんどん減っていくんじゃないかと
いう、さっきの小学校に入るお母さんと同じような心配じゃないですけ
れども、親としてはそっちに行くかなと思うんですけど、その辺の取組
のところはどうでしょうか。

小柳学校教育 部長	<p>中学校の人数が、来年度以降どうなるのかというご心配いただいている方はたくさんおられるんじゃないかというふうに思います。私たちとすれば、やはり指定学校ですから、指定学校制度をしいているので、今の重井小学校の卒業生の方には、重井中学校に行っていたきたいという思いや願いがありますけれども、今の現状、学校選択制度があつたり、こういうお話をさせていただく中で、どういう選択をされるかというのは、それは分かりません。今の、例えば1年生のお子さん方が、中3になった時に3人、ゼロ、ゼロになる可能性もあります。そういったことは事前に保護者の方にもお話をさせていただいております、その中で、そういう状況であっても、子どもたちの学習環境や教育内容は充実させていくというようなことも話はさせていただいております。ですから、今後の状況、気になるところだと思いますが、そういう状況。</p> <p>あと、部活動については、今、合同部活動をしているというところが市内でたくさんありますし、合同練習をしているケースもありますので、単独でできないということになりますと、合同練習を近隣の学校と組む。例えば、因北中学校と合同部活動をするでありますとか、そういったことは積極的に考えていかなければいけないと思います。</p>
質問者○	<p>さっき、中学校の部分で、3人が重井中へ行ったじゃないですか、今、くじで漏れたとかいう話があつたけど、これだけの人数が集まってるんですから、はっきりさせとかないと、いろんな噂が流れると思う。我々が聞いているのは、13人のうち3人が希望して重井中に行きました。決してくじで漏れたわけではありませんと聞いとります。それを確認したいと思います。</p>
小柳学校教育 部長	<p>今、言われたとおり、13人のうち10人の方が因北中学校を希望し、学校選択制度で10人入られております。3人の方は重井中学校の少人数の教育に魅力を感じられて、是非、重井中学校にということで進学されたというふうに、私たちも直接、当然行政がやっているんですから、そういうことがございます。</p>
質問者○	<p>ありがとうございます。</p>
質問者P	<p>しつこいようですが、校名に戻らせてもらいます。</p> <p>校名が、たくさん意見が出ておりますが、重複するところもあると思いますが、ご勘弁いただければと思います。</p> <p>統合して新たな学校に再編するのであれば、重井の子どもたちが、因</p>

北小学校、因北中学校に通い、因北小学校の校歌を歌い続けるということは、重井の子どもたちや保護者が、自分たちの学校という意識が薄れ、重井住民も同様で、学校との関係や協力体制も弱体するのではないかと思います。

要望といたしまして、新しい学校になるのであれば、新たな学校名、新たな校歌を創っていただき、新しい学校として検討いただければと思っております。以上です。

質問者Q

すいません。時間がないので。前から思ってたんですけど、簡単に言うたら、財務省から出たんですかね。子どもの数は減ったのに、学校の数が増えたらんじゃないかと。それから、この学校統合がどんどん加速して始まったと思うんです。それも全部大人の都合で。学校の合理化ですよ。その間、ずっと主役は子どもなんじゃないけど、子ども目線ではないか、考えてきたのかなといつも思っています。今回のことでいったら、重井の子が因北小学校に行く、転校するのとあまり変わらないのではないかと、子どもたちから見たら。因北小学校の子どもらも、「ああ、重井の子が来たんだな。」と、それだけで終わってしまうと思うんです。元々、統合で学校がなくなるんですから、転校もないのだが、その中で、少しでも見出していくのであればね、2つの学校が、たまたま校舎が因北の小学校の校舎を使うけれども、新しい学校名、新しい校歌、そして新しい校旗、それで一緒にやっという意欲、環境がないと仲間意識も固まらないし、地域の方の繋がりも持ちにくいんです。例えば、運動会で重井の人たちが行きます。僅かなスペースのテントをもらって、そこで見ます。で始まります。校長先生はどんなふうに挨拶されるのかなあ、何にも変わっていない、客観的には。でもそこで、新しい校歌が流れて、校名旗もあつてとすれば、学校や校舎はたまたま因北小学校だけれども、新しい学校で、ゼロからともに一緒に進んでいくんだなあ、やっていくんだなあ、子どもたちもよく分かると思うんです。そういった仲間意識を持たせて欲しいんです。そのためにはただ、因北小学校へ、ただ、重井小学校の子どもたちが、ただ行く。それじゃあ、あまりに重井の子どもたちがかわいそうですよ。重井の子どもらはこれからずっと大変ですよ。スクールバスで通って行って、いろんなところで話を聞きます。統合してみると不登校になったり、中にはバスに遅れて、誰も見る人がいなくて、泣きながら学校まで歩いていったということも聞いたりしています。中々、そこまで全部手が届かないということもありますが、そういったことを子どもたちはずっと精神的にも肉体的にもそういった負担を受けながら、これからやっていくんです。もっとそうい

	<p>う子どもたちを大事にして欲しいんです。因北小学校の子どもにとってもプラスになるように。そんな、特定少数支援の子どもたちをやってきたら、何か不安定になった時に、気持ちが落ち着かない時、大抵いじめをするのは、特定少数ですよ。「ああ、あいつらは重井から来たんじゃないか。」と。僕らでもどんな風に思われとったかわかりませんが、「重井の芋、芋」とよく揶揄されて馬鹿にされたりしました。そんな空気は今はないとは信じたいですが、それは分かりません。今でもそういうことを言われます。「お前ら芋と麦を取ってきたんよの。」ということは、今でも残ってます。そういった空気を子どもたちは吸うかもわかりません。どんな発言があるかも分かりません。そういったことはいくらかでも払拭していくためにも、新しい校名を持って、新しい校歌で、先ほどのポルノグラフィティのがあれば、本当にワクワクした、展望のある再編になるのではないかなと思います。で、重井でああ言っていた、こう言っていたというのを、そのまんま因北へ行って言われても困るので、そこは適正に、教育委員会で判断されて、検討されてください。そうしないと、重井と中庄の人が対立してしまうんです。そんなことになったら、元も子もないでしょう。皆がいくらかでも前を向いていけるような統合になることを願っております。よろしくお願ひします。</p>
質問者 R	<p>今、キーワードとしては校名が出ました。このレジメですね、レジメを見てまして、すごく矛盾を感じます。1 番最初に目指す子ども像、「郷土を愛し、心豊かに、たくましく」と。「郷土を愛する心」、これは何で培っていくのか、今、皆さんが意見があったそのとおりでと思うんですね。教育委員会の方々は、一刻も早い教育環境、複式を元に戻す。そのためには今、皆さんの意見を総合しなければ、成り立たない話だと私は考えます。ですから、是非とも今の意見、最終的には教育委員会が決定する。そういう問題だと思います。ですので、是非ともこの意見を受け止めていただきたいと強く思います。よろしくお願ひいたします。</p>
質問者 I	<p>1 番大切なことを確認したいんですが、給食はいつから始まりますか。もう何回も騙されたので。</p>
中濱教育総務部長	<p>今建設しております因島共同調理場でございますけれども、1 2 月末辺りを完成の目途といたしまして建設を進めているところでございまして、ただ、実際に運用していくにあたっては、今の共同調理場での調理を行いながら、新しい調理場の運営を進めていくということになりますので、少し時間がかかってまいります。できるだけ早期に子どもたちに</p>

	<p>給食の提供を進めてまいりたいという思いは当然ありますけれども、先ほど課長の方が説明させていただいたとおり、完全にとりか、給食の提供ができるのは、新年度令和7年度になってからと。</p>
<p>質問者 I</p>	<p>じゃあ、3年生はもう食べられませんね。</p>
<p>中濱教育総務部長</p>	<p>できるだけ早期に進めてまいりたいというふうに考えております。</p>
<p>質問者 I</p>	<p>約束してくださいよ。 私は親の代わりに重井中の説明会にも行ったし、話も聞いたりしてますけど、まとめ方として、これが皆の意見となって皆さんに報告しているのか、正しいかなと常々思っています。皆の意見、保護者は分からない、それをちゃんと説明した上での結論を出しているのかと常に思っています。子ども中心に考えて、なぜこうなるのか、今、重井小学校中学校の1年生のこと、いろいろ問題が出ているのも、全部まとめ方が、教育委員会がリーダーシップをもって、ここをこうしますとおろしたら、もっと保護者、市民は皆分かると思うのに、部分的な部分だけをここは上げて、じゃあやっぱりねという意見が、今、聞きながら思いました。やっぱりねじゃなくて、こうなりますよと納得。素人は分からないと思います、私らも一般の市民も。だから教育委員会の方がこうこうで、10年後はこうなるからこうしますというのを、行き当たりばったりで、私たちが定年で辞めてきてるから分かりますよね。それでいいのかと思ったら違いますよね。子どもたちが日々成長して、どっかへ行ってしまいます。時間はないからどうぞやってください。お願いします。</p>
<p>質問者 S</p>	<p>資料1の小中一貫教育校のこのうちなんですけど、これ私、5月の公民館の説明会において、因北小学校においては、各学年の人数を重井学区と因北学区の打ち合わせで明記して欲しいとお願いしたのだが、これについては。 というのが、スクールバスの問題で、統合するにあたって、令和9年度から統合の予定となりますが、重井小学校の令和9年度は50名、因北小学校は245名なんですけど、この245名の内、重井学区から既に行っている学校選択の子もいると思うんです。この中の因北小学校に通っている重井学区の子どもと、因北学区の子どもと出して欲しいなと。それによって、本当にスクールバスへ、因北小学校区へ通う子どもたちがどれだけ乗れるのか、重井町もいろんな家がありますので、どう</p>

いうふうな感じで、何台バスを出すのか、例えば朝1便だけなのか、20分おき30分おきとか間隔おきに出すのか、そこら辺のことと、あと、大浜小学校がなくなって、因北小学校に統合合併する時には、スクールバスは出すという条件だったらしいんですけど、いつのまにか、スクールバスがなくなったというのを聞いたので、ちゃんとスクールバスを出すのであれば最後まで子どもたちを送り届けて、学校まで送り届けて、家にも送り届ける体制を作って欲しいと思います。

それと、学校経営の表がありますけれど、新しい学校を創るにあたって、重井小学校中学校がなくなって、新しく学校ができるのであれば、学校名が変わるかどうかわかりませんが、因北小学校、因北中学校においても、学校経営の全体構想図がまるっきり変わるのでしょうか。お答えください。

小柳学校教育
部長

スクールバスについて、ちょっと状況が今、変わってきているんじゃないかというふうに思います。10月1日から、皆さんもご承知だと思いますが、実証実験が始まって、この重井地域から因北へ直通する路線バスが試験運行されます。それがどういう結果になるかというのはわかりませんが、もし、それが令和9年度の時にも、実証実験から本運行になるようであれば、路線バスを活用して通学対策をするということを考えていかなければいけないというふうに思います。

それが叶わない、路線バスが新規にされないということであれば、これまでお話をしているように、委託バスを運行させていただきますけれども、それがどういった運行体制であるとか、車両の大きさであるとか、それはまだまだ今後の話になってまいりますけれども、それは必ず全員が乗れるようにしていきたいと思います。

それと、多分、小学校の意見交換会、PTA総会の時に多分おっしゃられていた、学校選択制度で今どれくらい行かれているのかということですが、今の、令和6年度ですから、新1年生は5人、2年生が7人、3年生が3人、4年生が0、5年生が1人、6年生が3人ということで、私の手元の資料にあります。

それで、大浜小学校の件が出ましたけれども、大浜小学校は、当時、西浦地区とともに、市が所有しているバスで運行しておりました。ただそれがもう老朽化するということになりまして、更新されないことになりましたので、大浜の皆さんとか西浦の皆さん、保護者を含めて議論をする中で、路線バスを活用した通学支援に変えさせていただいた経緯があります。勝手に変えたということではないことはご承知おきいただきたいと思います。

<p>質問者 S</p>	<p>学校経営の構想図についてですけれども、これは今後、令和9年に再編していくことになるので、小中教育一貫校を私たちは目指しておりますので、小中教育一貫校の構想図となってまいります。ですから、今掲げている学校教育目標とか教育の中身というのは、引き継がれる部分もあるとは思いますが、新しい中身というのがたくさん入ってくるようになるというふうに思います。今ではどの部分になるかというのは中々、ちょっと申し述べにくいところがございます。</p> <p>重井町の行事として文化祭とかお祭りがあると思うんですけれども、統合した場合、子どもたちは、中庄の、多分、お祭りとか文化祭とかには作品を出品とか出展とか、参加したりすると思うんですが、子どもは友達ができ、「行こうや行こうや。」という感じになると思うんですけど、重井町の行事に対しては、その辺がどうなるのかなという心配があります。もし、因北小学校へ行ったならば、重井町のそういう行事へ子どもたちが参加しなくなるのではないかなという。そうするとますます重井町が廃れていく、寂れていく、寂しい町になるなという思いもあります。</p> <p>子どもたちは多分不安もあり、お友達がたくさんできて楽しみもあると思うんですけど、親は親でPTA活動に関して、因北地区と重井学区でやり方がまったく違うので、途中から行ってかなり温度差があるだろうし、なかなか難しいところがあるので、先ほどもちょっと意見が出ましたけれども、PTA活動、例えば因北小学校であれば、小学校5年生の時にPTA会長をするらしくて、重井は小学校6年生でPTA会長をするんですね。因北中であれば中2の時に親が会長をして、重井中は中3の時に会長を受けるんですが、それも投票で、無記名の投票で決まって選出されると聞いたので、ちょっとやり方が全く重井と違うので、その辺が、ちょっとどうかなという不安がかなりあります。その辺も、統合するのであれば、教育委員会さんがやっぱり主立って、先立って改革していかないといけないのではないかなと思っています。その辺については考えていただけますでしょうか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>地域への子どもたちの参加ですけれども、今の市内の中で先行事例がたくさんあるんですけれども、例えば敬老会でいいますと、子どもたちが自分の出身の地域の敬老会に作文を読みに行ったり、歌を歌いに行ったりですね、そういうことをしておりますし、町民文化祭だと、自分の出身の地域の文化祭に作品を出品しているようです。ですから、そこは、今後、地域と学校がどのような連携をしていくのか、例えば、コミュニ</p>

	<p>ティ・スクール化しますから、その中でそういったご意見を出し合いながら、進めていければいいのではないかというふうに思います。</p> <p>決して、子どもたちが地域から離れていっているということではない。地域への行事には、その地域の子どもが参加しています。ただ、重井の子が因北の行事へ参加するんじゃなくて、重井の子が重井の行事に参加しています。ただ、まあ、新たな取組になるのかどうかは分かりませんが、実現するかどうか分かりませんが、尾道みなと小学校の地域での議論では、地域に関係なく、久保の子が土堂の行事に来てもいいよねとか、これまでとは少し違ったオープンな考え方を示されているということもありますので、それは今後の地域と学校との話し合いの中になってくると思います。</p> <p>P T A活動については、これは、どのP T Aもすごく熱心に活動されておられまして、それぞれのやり方がもうかなり違うということは私も認識しています。実際に違います。ですから、かなり新しいP T A活動をしていく時に難儀をされておられますけども、どこも。ですけども、やはり、P T A活動の意味でありますとか、持続可能なP T A活動ということで活動をスリム化したり、様々な工夫をされながら、P T Aの組織を作っておられます。その中の話し合いで、会長さんをどのように決めますだとか、役員さんをどう決めるんであるとか、そういった話をしているだけでいいというふうに思います。</p>
司会者	<p>時間を経過しておりますので、最後に1人だけ質問を受けさせていただきます。よろしいでしょうか。</p> <p>(2人 挙手あり)</p>
司会者	<p>あと2人ということによろしいでしょうか。</p>
質問者T	<p>子どもが3人、重井小中学校でお世話になりました。少人数ですけども、ともて先生が熱心してくれて、今もう大学生になっています。今、これ統合の話ですけど、一番大事なのは、今行っている子どもたちの気持ちが一番大事で、今、これから行かれる子どもさんのお母さんたちの気持ちが一番大事で、いくら大人が議論しても、私は中庄と重井の子どもに接する活動をしていることが多くて、娘が中学生の時ですけど、学校帰りに行けるということで、いろんなクラブを通して、因北中学校に行かれた友達もいました。ただ、別のところで、子どもたちの習い物のところで、「重井から変な奴を送り込んでくるんじゃない。」とかそういったひどい言葉を娘たちが浴びせられたこともあります。子どもたちからしたら、ずっと小学校まで一緒に行ってた仲間が、「変な奴を</p>

送り込んでくるな。」とかいうような言葉を因北の子から言われるということが、ちょっと理解ができなくて、他に、子どもたちでも登校拒否になった子もいます。なんで、学校名をね、先ほどから町内の方が言われていますけれども、重井の子も因北の子も新たな学校へ行くという方がいいかなと思うんですけど、「来させてやった」「入れさせてやった」「重井が勝手に来た」というような、子どもたちの中で、多数の子どもではないと思いますが、そういう言葉を、今度「重井の子を因北へ入れてやるんだ」とかそういった言葉を子ども同士が浴びせるような環境はどうかと思うんですね。

特に言葉ってすごい怖いもので、私、ちょっと、弟がいじめで心身障害者になって今25年です。あまり言いたくはないんですけど、本当に大変です。もう、一晩で普通に元気な高校生が、一晩で知的に2歳から3歳に下がってしまって、25年間ずっと家族で世話をしていますけれども、最初の入院費1か月20万ぐらいかかりました。そういったもの、ずっと学校の先生たち、いじめられる時に、教室から連れて出られている時も止めることができなかった。大人数の学校になるとこういうことも起きるのかなと思いました。父も母も自殺しようとしたこともあります。なんで、統合で、ただ人数を増やせばいいということじゃなくって、ちっちゃい子ども、これから重井の子が安心して行けるように、そして地域の方が今まで、うちの子どもたちもたくさん支えてもらって、ほとんどここにいらっしゃる方が何らかのことで関わってくれている人が多いので、やっぱり地域の方が、統合は人数が少なくなったからしょうがないけど、先ほど言われたように、新しい「因島北小学校」で、これから重井の子も頑張るんだったら、一緒に重井の人と中庄の人が力を合わせて、この子どもたちを守ってやろうとかというような協力できる環境を作って、新たな学校をスタートさせてあげられるのが、これから行かされる保護者の方とか、今行っていらっしゃる子どもさんの家族の方への配慮じゃないかなと思うんですね。教育委員会の方も一生懸命考えてくださって、すごい理想的な教育はありますけれども、やっぱり今の世の中、いじめられたりして行けなくなる子どもとか、ひどい言葉を携帯でLINEで、1年生ぐらいからLINEをしていたりして、そういう、親の知らないところでひどい言葉を浴びせられたりすることもあるので、やっぱり、地域の人意見もしっかり聞いてあげて、例えばどこかで子どもが1人困っていたら、重井の人が、「あ、どここの子だ。ちょっと1人でのいるから。」というふうに手を差し伸べられるような環境を作って欲しいのと、今、中学校も、因北に頑張っている子どもがたくさんいます。統合しないとだめなのかなと思うことが1つありまし

<p>「重井小学校 重井中学校統 合問題懇談会」</p>	<p>て、現在、通学路である、重井から中庄の通学路は草がぼうぼうです。子どもたちの安全を確保するというのは、統合しないとしてももらえないのか分からないんですけど、あの草が生えて、でこぼこになっている道路を、子どもたちが自転車で走ってます。電動カートで走れないほど、草が生えてますので、そこは今、現在、頑張って通っている子どものために、警察とかそういう方とかと話をし、子どもたちが怪我をしないように、学校に行けるようにしてやって欲しいなと思います。町内の方の気持ちを汲んであげて欲しいなと思って、よろしくお願いします。</p> <p>※質問者Tには議事録の公表について了承を得ています。</p> <p>冒頭にこういう数字を示させてもらいました。お願いです。是非、来週、因北の保護者に対してこの数字も提示してください。どうも話を聞きようと、重井の複式を解消するんだ。重井の少人数を解消するんだと。重井のためにする再編なのかという、そんな気がしてなりません。我々3月意見交換会がここでありました。その時はなんの提案もありませんでした。5月、ここで初めて小学校再編を知りました。我々は、ここで町民の代表が2回にわたって意見交換はできました。ところが、中庄方面で、我々と同じ形の意見交換会は、まだ一度も開かれておりません。同時に、対等に本当に進めていくという、そういう気持ちがあれば、私は、再編のそういう手続きも同じようにするべきだと思います。先ほどから、校名についていろいろ出ました。検討して下さるとい。だからもう今の段階からもう検討中なんです。来週、因北小で、校名について触れる時は検討中と言ってください。間違っても、重井の方から、反対意見が出たと、そんなことは絶対に言わないで欲しい。</p> <p>我々は6月の段階で言ったはずです。「けんかしたくないから、発表は慎重であって欲しい。」という、その話を我々は6月の終わりにしました。けんかしたくないんだと。仲良くやっていかないことには、新しい学校はできません。以上です。</p>
<p>司会者</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上で本日の説明会を終わります。本日のご質問ご意見を参考に、今後の保護者や地域との説明会に活かしてまいります。</p> <p>以上で閉会をいたします。地域の皆様、本日はどうもありがとうございました。</p> <p>(21:20 終了)</p>

※議事録中の質問者を示すアルファベットは一連の質問の流れを示すものであり、異なるアルファベットであっても、同一の方のご発言である場合があります。